平成 30 年 10 月 9 日
教員：　中村・山根・金承華

千葉県香取市佐原地域にて学生プロジェクトを実施しました

地域経済デザインコースの 3 年生ゼミ（演習 I）では、学生プロジェクトとして、学生の目線から地域活性化の研究に取り組んでいます。

このたび研究の舞台に選ばれたのは、千葉県香取市佐原地域です。佐原はかつて関東水運の拠点でありまた関東有数の米どころでもあったことから、「江戸まさり」とうたわれるほど栄えた商人の町でした。昔ながらの江戸の町並みと情緒を今に残していることから、歴史に根ざしたまちづくりの舞台として佐原地域を訪れ、佐原の「まちづくり観光」を学ぶべく、調査研究を実施しました。

はじめに、江戸情緒あふれる佐原地域を着物姿で散策し、観光客＝消費者の立場から町並みを体験しました。これは地元の「NPO 婆沙羅」によるレンタル着物サービス「きもの美人」のご支援ご協力により、実現させていただきました。

そして地元商家の偉人であり、自ら全国各地を歩き回って測量し精密な日本地図を作り上げげた、伊能忠敬の旧宅を訪れ、その業績を偉業について学びました。その後「NPO 婆沙羅」の鎌形さまより「きもの美人」のねらいと成果について、佐原地域の歴史的価値にかんする解説をまじえていただきながらお話をうかがうことができました。

平成 30 年 10 月 9 日

教員：　中村・山根・金承華

つづいて NPO 法人「佐原アカデミア（まちぐるみキャンパス）」事務局長の椎名さまより、佐原のまちづくりについて町衆の視点から解説をいただきました。具体的には佐原の商家町の歴史的景観をいかに現在に残し、単なる「観光まちづくり」にとどまるのではなく、地元愛にあふれた地域住民を主人公とし、住民と観光客とが一体となった「まちづくり観光」というコンセプト練り上げ実施したかを、実例をまじえてご披露いただきました。また関東で初めて重要伝統的建造物保存地区（以下、「重伝建」と略記）として選定されるまでの佐原のさまざまな取り組みについて講話をいただきました。最後に宿泊客需要を掘り起こすために、住民や佐原商工会議所、そして旧 佐原市（現 香取市）という地域ぐるみで佐原の町家をホテルに改装する試みがなされており、今まさに外国人を含めた宿泊客が増えつつあるという現状と展望について解説していただきました。

このように今回の調査研究では、観光客＝買い手の視点と、お店＝売り手の視点、そして地域住民＝受け入れ手という、3 つの立場からの検証を実施しました。また先の講話を受けて、佐原の中心を流れる小野川をサッパ舟とよばれる観光用の小船で巡り、「重伝建」地区指定によって川沿いに残された昔ながらの美しいまちなみを、体験しながら学びました

今回の研究のために私共にご支援・ご協力くださった NPO 婆沙羅さま、佐原アカデミアさま、そして佐原商工会議所さま、さらには佐原の地域の皆様に、厚く御礼申し上げます。

なお、学生による一連の調査分析や成果については、「プロジェクト型授業・学生プロジェクト研究成果発表会」（2019 年 1 月 23 日（火）実施）のなかで報告される予定です。